


投与ルートを確認することで配合変化を回避

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は実際の投薬状況を確認することでより効果的で適切な治療につながった事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶ 直腸癌切除手術後 点滴加療中の患者
投与ルート確認のため訪室
【処方】ドブポン®注0.6%シリンジ 60 μ g/分 持続静脈内投与
ハンブ®注射用 1000 6 μ g/分 持続静脈内投与

Yさん



あ！ドブポン®とハンブ®が
同一ルートになっている！

Yさんの投与ルートですが、ドブポン®と
ハンブ®が一緒になっていますね。

はい。
どうしましたか？

実は、こちらの2剤は混ぜることで
配合変化が起こります。
外観は変わりませんが、配合直後から
ハンブ®の含有量が80%程度に下がり
その後も徐々に低下するというデータ
があります。

そうなんです！
白く濁ったり、沈殿物がなくても混ぜては
いけない場合があるんですね。

そうですね。
どちらかルートの変更はできますか？

はい。
ハンブ®を別ルートに変更したいと思います。
教えてくださいありがとうございます。

薬剤の特性を考慮し、投与ルートを設計することでより効果的で安全な治療に貢献できた。